第3回　養父市文化会館（仮称）を新しい出会いの場とするための基本計画策定委員会議事録

日　時　令和２年10月12日（月）　10:00～12:00
場　所　養父市役所　当局控室
出席者　平田会長、和田副会長、青柳委員、木下委員、横守委員
欠席者　なし

１　開会
２　委員長あいさつ
３　議事・意見交換

【計画について】

【計画期間】
・計画期間っていうのはきっちりと書いたほうがいい。何ヵ年で、どういうところまで行こうとするのか示さないと前にいかないのではないか。
・実施期間は市民の皆さんが何やっているかわからないとならないよう短期的なビジョンとしては、3年ぐらいがいい。ただ市の内部における人材育成となると、5 年 10 年見ていく必要があり、中長期型の議論と、短期的な議論というのを少し分けた書き方の方が望ましいか。
・大体指定管理でも直営でも、オープンのときはすごく景気が良いが、5 年 10 年たつと、硬直化してくる組織が多い。なぜなら、中長期的なプランというのがやはりどこも欠けていて、長期的に見て、どこを目指していくかというのははっきりとさせておいて、そのためにどうやっていくっていうことを明確にしていかないと、結果的に 1 年 1 年、とりあえず、イベントをこなして、施設を運営してみたいな感じになってしまう。そういうことをさける仕組みというか、考え方でもいいと思うけれども、書いておくべきかと思う。

【環境の変化】
・今まではほとんどの公演は満席売り切れが常だったが、明らかにチケットが売れなくなっている。収容率が緩和されて、100％入れていいとなっても、隣に他人が座るということに対しての嫌悪感というのができてしまったのではないか。
・今、文化庁からの補助事業が新しく始まったが、ほとんどが動画配信やバーチャル体験に対しての補助金。リアルな体験とバーチャルの体験というのが、これから同時並行で進み、いずれバーチャルが勝ってしまうのではないかと危機感がある。
・スマホ 1 台、iPhoneがあれば綺麗な絵が撮れるが、撮る方が全くその感覚に追いついていないのが現状。ホールも、映像を取る部署や人が全くいない。
・東京ではすでにホールやサロンでオンライン配信つきのパッケージの企画を立てていて、若い人

を中心に非常に人気。ホールやサロンですぐれた技師を雇い、配信込みで貸すというのが始まっている。

・環境の変化で、今までのやり方ができない状況であれば、映像配信もやらなければならない。このホールも、価値観の端境期にできる施設である。何かそういったところも新たに加えて考えていくということも一つの特徴を出せるのではないか。

【文化会館（仮称）の役割】

・文化芸術を市民が育てていくとか、何か新たに産んでいくとか、そういう部分をもう少し触れたらどうか。

・若い人たちで例えば演劇でも、バンドでも、やりたいことを、この文化会館がサポートしてく、育てていくという部分もあってもいいと思う。

・利用を待つだけではなく、アプローチをかけていく、文化会館専属の子供合唱団とか、芸術集団みたいなものを作っていくことも、将来的にあってもいいと思う。

・憩いの場について、どういうコンテンツがそろい、どういう場であったら、集いたくなるかということを、具体的に若い世代たちの意見を聞くとすごく思いもよらないアイディアがでるのでは。

・この計画書の六、七ページがあって、その項目ごとの具体例みたいなのを、その次で挙げて行くような形で具現化するのがあれば、形としては見えてくるのでは。

【他ホール等との連携】

・やはり地域格差っていうのはどうしても出る。有名アーティストは大体東京に住んでいて、来てもらうと交通費や宿泊やかかるのは当然で、解決策はない。ただ、姫路に新しいホールができ、県の芸術文化センターもそうだが、かなりの数の公演をやっており、そこに来たアーティストさんを養父市に、来てもらうっていうことにできれば、経費節減ができるかなと。そういう意味では、姫路やら芸文センター等との施設との連携というのは一つの手ではないか。

【スケジュールについて】

・要するにそのプロデューサー、専門人材と、その事業内容は早急に 11 月に入ったら決めていく必要がある。

・市民の立場から言えば、日々、毎月、何か催し物があって、年に数回、但馬圏域なり、県内から集客できるようなコンサートを開いていくのが望ましいかなと思う。

【オープニング】

・オープニングをどうするかということ。それから、オープニング期間。そこら辺の枠組みぐらいはここで決めてもいいかと思う。その後のただ単に単発のオープニングイベントではなく、その後の館の方向性を決めるようなものになっていくってことが理想。

・来年秋は枚方市とか姫路とか、新しい施設のオープン合戦になる気配が関西方面である。やはり早いもの勝ちなので、急いだほうがいい。
・9月以降のオープニングシリーズということである程度、予算やこれまでの4ホールでのいろいろな企画等も、あわせて日程調整して予算を確保して行いながら、プログラム等のプロデューサーが決定したら、一緒に検討していければと考えているところ。
・中長期的な、こういうふうにやっていきますようぐらいのところは入れたほういい。それから逆算してオープニングプログラムとしてはこのぐらいのボリューム、このぐらいの予算が必要だってことはぐらいまでは、できたら提言できるといいのではないか。

【専門家の配置について】
・8 ページの推進体制の中での専門家の配置について、具体的にどういった専門家が求められるか、もう少し明記されてはどうか。
・20 代 30 代の人材を配置するのもいいのではないか。今、オンライン配信のことも含め、世代間の格差が広がっている。
・ミッションがあって本来は人を呼ぶもの。だからやはり本来はここでミッションは定めておくべき。そのミッションにふさわしい人を選ばないといけない。
・将来的には職員がその役割を担えるよう育てていきたいとあるが、市の職員は 2 年～5 年で異動することがあるので、育てることができるかは疑問。

【具体的な事業について】
・一番初心者でも参加できるのが打楽器かと思う。今打楽器の世界で非常に多様な活動をしている若い世代がおり、例えばそういう方を呼んできて、身近なものを使って、子供たちが簡単に参加できるような催しなど考えられる。
・ジュニアオーケストラは養父市の規模だと厳しいが、ダウンサイジングすれば小さな町でも可能かと思うので、将来的にこれを目指すということは書き込んでもいいかもしれない。要するに子どもたちにステップアップの場を作るということ
・やはりチェロのコンルールは非常にブランド価値が高くて、これはぜひ発展させていったほうがいい。例えばチェロを中心に弦楽器の親子で楽しめるコンサートを毎月やっていくとか、大きなものから小さなものへの組み立てのようなものが示せると、具体的になっていく。
・コンクール自体はビバホールでやって、優勝者コンサートといった感じで、文化会館（仮称）で、室内オーケストラを入れて、ドボルザークのコンチェルトを演奏してもらって等。
・歴代の受賞者とか、そういう方々をガラコンサート的にさらに招いてとかなら、ビバホール以外とも連携してやるといったこともできるのでは。
・但馬の方々はすごく素朴で、親しくなると本当にとことん親しくなれる触れ合いのイメージがあり、来てくださる方々と本当に心と心で触れ合えるようなあそこに行くと安らぐステージが見られるなとか聞けるなとか、和むような雰囲気の催しになるといいと思う。

・この計画書と並行して、具体の企画が並行して進んどいて、それから最終的にガッチャンコするということかと。その両方ともこの委員会、事務局が策定されるというストーリーなのか、それとも、二本立てで走って行くのかということによってこのまとめ方も大分違うと。10 ページの内容が入るのか入らないのかはそこに出てくる。

【施設管理等】

・新しい文化会館に関する、管理運営マニュアルというか、一つのマネジメントをどうしていくかみたいなことも必要。
・この建物において、何を、どんな使い方をしてもいいのか、いけないのかとか、いつ開いていていつ閉まるのかとか、細かくいろいろ議論しなきゃいけないことがありそれに対して体制として何人の人たちが必要か。
・管理運営については、公民館の方でも 3 月末までにはある程度の具体的な管理運営マニュアルを作り、9 月オープンに合わせて、調整はしていきたい。
・計画策定に関しては、中長期的なビジョンをきちっと提言するとこと。推進室の方で次年度のオープニングに関する検討とか、管理運営マニュアルに関しては作っているので、それをうまく新しいその組織体制の中に取り込んでいくというそういう役割分担の方が明確。
・土地利用未来課が整備するグンゼ事務所棟宿泊棟の将来計画図と文化会館側としての計画図のすり合わせをする場所という意味ではこの委員会は適切であろうから議論しては。例えば、文化会館で使う舗装と、グンゼ事務所棟で使う舗装が、同じ性能だった場合は素材とか色合わせとかしようという話。そうすると、スケールメリットを出してどうやるかみたいな議論もしやすく、物理的にバリアがないという状態にしておけば、使い方の可能性は広がるのではないか。

【運営体制】

・市内には、市民と行政が協働してホール運営している団体があり、そこが自主事業を実施してきた。新たな文化会館も直営であっても、市民を交えた運営組織みたいなものを作っていただきたい。
・裏方のスタッフの育成は、早めに市民に呼びかけて、オープンに間に合わせたスケジュールを組んでほしい。市の職員だけでやると、市民の方もだんだん遠ざかっていく。若い人たちの声も聞こえる場についても、組織の中に要るかと思う。
・ボランティアスタッフと、専門的な技術スタッフの割合について、今度のホールのスペックで、全部ボランティアスタッフで賄うのは難しいかなと思う。いわゆるボランティアスタッフの方は受け付け回りとか仕込みばらしとかの人数の多いところに入っていただくが、基本の技術はプロというところが、公共ホールでは主流になってきているかと思う。安全性の確保の問題もある。そのあたりもうちょっと具体的に書いてもいい。
・少なくとも、専門家のプロデューサーとか音楽監督を入れるにしても、何かやはりそのサポートメンバーのようなものとか、運営委員会のようなものはあった方がいい。

・組織図に会館を実際に運営していくにあたっての、行政、専門家、そしてその下に、どのように意思決定をしていくのか、或いは市民の声を吸い上げていくのかという連絡会議のようなものが必要。そこに行政も入り、透明性の担保も必要であり、何らかの組織は必要になるだろう。
・スーパーキッズオーケストラを呼んだり、ブロック塀に対して壁画を作ったり、市民が、養父を盛り上げる会、略して養父もりという市民の皆さんによって作られている組織をもう少しそれをうまく位置付けられたらいい。
・壁画も市内高校の西洋画部が入ってくださったり、或いはボランティア部の皆さんが、スーパーキッズの時にもサポートできたりっていうことで、今までやってきている幾つかのことに関して、地元の高校及び高校の先生とのコミュニケーションもしてきており、うまく発展できたらいいのではないか。
・サポートスタッフというのは、やはり地元の方でないと交通費もかかることもあり、地元の方から、興味のある人とか各世代を選ぶのがいいかと思う。

【その他】
・よその成功事例が必ずしも当てはまらない。そこだから成功したっていうところがあり、やはり自分で考えてやっていかなければ仕方がない。
・テキストベースではなくグラフィック等を使って、わかりやすく、こういうことやろうと思う、と市民の皆さんに向かって発信していくものが望ましい。ユーザーは間違いなく、市民であり、この但馬地域の皆さんでもある。この書類自体がある種の波及効果を持つような書き方になると理想的。